

## 女性冷え性に対するイチョウ葉エキスの臨床効果

○盛政 忠臣

脳神経センター大田記念病院

【目的】ヨーロッパでは既に医薬品として、「イチョウ葉エキス剤」が認知機能障害を伴う種々の症状を緩和する目的で、痴呆症やアルツハイマー病に使用されている。アメリカにおいても痴呆症に対する臨床試験が実施された。最近著者らは、脳梗塞後遺症に対する「イチョウ葉エキス」の臨床効果について報告した。その中、効能が一部示された、冷え性についての臨床評価について多施設オープンスタディーとして臨床的評価を行ったので報告する。

【方法】TPCのイチョウ葉エキス錠を用いた。

【対象】外来通院患者31名。全て、医師よりインフォームドコンセントを行い本人の自由意志により協力して頂いた。副作用を含めて、途中で中止になった症例は無かった。

【評価方法】摂取開始後4週間後に26項目のアンケートに4段階(改善、やや改善、変化無し、増悪)の自己評価による。一部の症例については、サーモグラフィーによる体表面温度の経時的な変化を測定した。

【結果】アンケートを回収し統計処理を行った。結果、このイチョウ葉エキスは、全例に対して、冬季および夏季のクーラー病に対して、有効であることが示された。

【考察】冷え性の悩みを持つ女性は多く、冬期に足先が冷えて寝つきが悪いといった症状ばかりでなく、夏にもいわゆるクーラー病と呼ばれる冷え性がある。原因については、血管神経ならびに自律神経などの関与が示唆されるが、不明な部分が残されている。イチョウ葉エキスの作用として末梢微小循環の血流の改善が考えられる。演者らが報告した前報の臨床例の中で、冬に靴下を着用しないと足先が冷えて寝つきが悪いがイチョウ葉エキスを摂取し始めて週間目から靴下無しでも眠れるようになったという人が数名いた。これらの改善を年齢分布で検討したが、特徴的な差異は認められなかった。

“肩こり”が改善を示した症例も示された。緊張性頭痛が改善された症例も示された。さらに、便秘が改善した症例も示された。臨床薬理効果の発現はイチョウ葉エキス服用の1～6週間以内に既に認められた。

これらの作用機序については、今後の詳細にわたる検討が必要と考える。本研究は多施設オープンスタディーとして以下の先生方の協力を得て実施中の中間報告である。

研究に御協力いただいた以下の医師、吉岡 保(倉敷成人病センター)、西内敏文(倉敷成人病センター)、小林完治(小林内科診療所)、吉川敏一(京都府立医科大学第一内科)、石岡達司(宮本整形外科病院)、杉山順子(大伝馬町耳鼻咽喉科)の各先生に感謝します。